

「親子会」から「こども会+支える会」へ

～地域で子どもを見守る仕組み作り～ について

—宮前町会(柏中央地域)の取組み—

1 親子会等の加入率低下

多くの地域で、親子会や子供会の加入率低下が指摘されています。既に、親子会等が休会ないし消滅している地域もあると聞きます。宮前町会が今回示した事例は参考になるかもしれません。

親子会等の加入率の低下にはいくつもの理由が考えられます。そもそも、少子化の進行が背景にあり、また非正規雇用等就労環境の変化(劣化)があり、核家族化や、町会等の地縁組織への帰属意識が低下していることも背景にあるでしょう。さらに、地域性もあるでしょう(戸建住宅が多い地域とアパートマンションの多い地域では違う)。

その結果、親子会等に参加する余裕がなく、メリットも感じられず、イベント開催が負担だ、と負担感が大きくなって退会につながっているようです。役員になるうという方も減っています。



クリスマス会

2 「親子会」から「こども会+支える会」へ

～宮前町会(柏中央地域)の事例から～

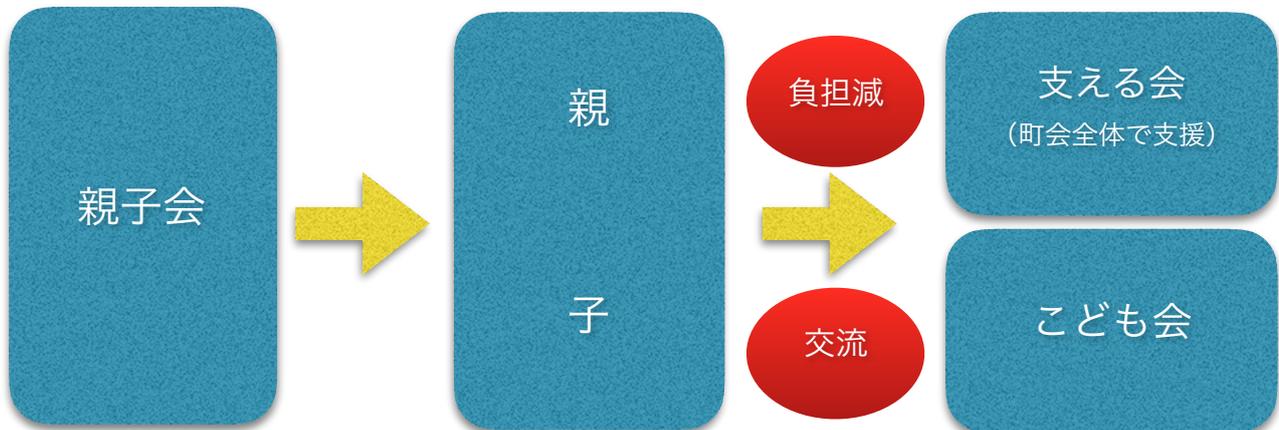
宮前町会では、親の負担を減らすこと、親の都合で子どもの町会事業等への参加が左右されないこと、等をめざして親子会を改組し、代わりに、小1から小6までの子どもは全員参加前提のこども会を創設しました(小1から小6は正会員。3～6歳児、及び中学生は任意加入の準会員としています)。親子会の解散で、親と子どもを一旦切り離し、代わりに子供会の支援組織を町会内につくりました。子供会は子ども自らが企画運営し、それを支援組織(シニア層を中心にした方々)が支えます。

この仕組みで、親は負担が減り、一方子どもは親の都合による親子会加入・非加入の別で起こりがちな弊害が、一定程度軽減されることが期待されます。さらに、子ども同士の交流が促進され、こども会の運営を通じて地域への愛着等の醸成が期待でき、自ら企画す



るイベントで子どもたちの要望等が汲み上げられます。実際、年末のクリスマス会では、子どもたちが、積極的に飾り付けを行い、役員の子どもが会の司会をし、自分たちで買い入れてきたプレゼントの交換が行われていました。

支える会の存在は、地域として子どもたちを見守る仕組みの一部ともなり、地域のシニア層が子どもたちと触れ合う機会提供ともなります。さらに言えば、若いお父さんお母さんの町会活動に参加するきっかけづくりとなることも期待したいと思います。



【本事例関係団体等】

*お問合せ等の了解は得ておりますので、関心をお持ちの方は直接お問い合わせ下さい。

■ 柏中央地域ふるさと協議会・宮前町会

副会長・若狭敏信 Wa-ka-2015j@jcom.zaq.ne.jp